

世界農業遺産国際スタディ・プログラム
イタリア研修レポート(2025年9月3日)

1. はじめに

9月3日の研修では、本部をローマに置く国連機関であるIFAD(国際農業開発基金)とWFP(国際世界食糧計画)を訪問した。まず初めにIFADを訪問し、質疑応答を交えながら、その使命や活動についての講義を受けた。その後、WFPに移動し、その使命や活動についての講義を受け、飢餓を無くすための取り組みについて学んだ。以下、現地での学習を基に視察報告を行う。

2. IFAD(国際農業開発基金)

まず、IFADについてである。IFAD(国際農業開発基金)は、97の国と地域でプロジェクトを実施している。その支援は資金援助に留まらず、政策アドバイス、知識、技術支援、イノベーションを提供することで、多角的に行われているのが特徴である。それは女性や男性、そして若い農家にとって、気候変動に配慮し、農業において包括的な変革をもたらすためである。

IFADの支援対象は、農村地域に住む人々や、小規模農家を中心である。また、先住民族との連携も重要視しており、彼らの優先事項に耳を傾け、彼らのネットワークを強化することを目標としている。特に、開発プロジェクトにおける女性と若者のエンパワーメントを極めて重要視していることが明らかになった。

今回の視察で分かったIFADが実施する支援は、次の4つである。1つ目は農家への支援である。種子(seeds)、農具(Tools)、および知識や技術的なサポートを行っている。2つ目は市場へのアクセス強化である。小規模農家と民間バイヤーを結びつけ、貧困層に有利な包括的なバリューチェーン(価値連鎖)を支援している。3つ目は、インフラ整備である。支援インフラの提供を通じて、生産活動を支えている。4つ目は政策助言である。資金提供に留まらず、知識や技術支援を行うことで、包括的に支援を行っていることが分かった。

またIFADは、農村開発における深刻な構造的課題として、ジェンダー間および若年層が直面する不平等を挙げている。農村部の女性が直面している課題として、以下の6点が挙げられていた。

1. 日々の仕事量の不平等な分配
2. 資産へのアクセスと管理の制限
3. サービスや知識、研修へのアクセスの制限
4. あらゆるレベルでの意思決定権の欠如
5. 女性の食生活は最も少なく、最も遅い。一現在、世界で食料不安に陥っている8億2,100万人のうち、60パーセントが女性と少女である

6. より多くの差別と暴力にさらされている

若者の課題として、若者の雇用問題が挙げられた。若者の失業率が高いことに加え、若年労働者の5分の2(2/5)が1日3.00米ドル未満で生活しているという実態がある。この課題に対し、若者を持続可能な農食料システム変革の中心に置くことが、持続可能な農村経済発展、食料安全保障にとって不可欠であると述べていた。



(図1) IFAD での様子

3. WFP(国際世界食糧計画)

次に WFP についてである。WFP は 2030 年までに世界の飢餓をゼロにすることを目標に掲げ活動する世界最大の人道支援組織である。世界 120 ヶ国以上で活動し、23,000 人を超える職員の 87%は現地で採用されている。WFP の主な活動内容は次の 3 つであることが分かった。

1 つ目は、緊急対応と調整である。紛争や気候変動、パンデミックなどの緊急事態が発生した際の初期対応者として支援物資の提供を行っている。

2 つ目は、栄養と食料システムの強化である。栄養失調に対する栄養改善などを通じて、脆弱な人々の生活を向上させ、食料システム全体の改善を支援している。また学校給食プログラムを通して子どもの栄養と健康を改善し、教育の機会を増やすだけでなく、地産地消型学校給食を推進し、地元から食料を調達することで、小規模農家の収入向上と地域経済の活性化を支援している。

3 つ目は、コミュニティの強化とリスク削減である。WFP は、単なる食料配給にとどまらず、地域社会の持続的な自立を目指した取り組みを行っている。その 1 つが、資産形成のための食糧支援である。このプログラムでは、コミュニティの回復力を高めるため、土地の復元、井戸やアクセス道路の建設などの地域開発プロジェクトに住民が参加し、その労働と引き換えに食料、現金、または気象保険を受け取ることができる。また、政府と連携し、貧困や飢餓、不平等を軽減するための社会保護システム(セーフティネット)の強化にも取り組んでいる。

さらに、WFPは人道支援コミュニティの中で最大規模の現金給付を実施している。現金による支援は、人々が自身のニーズに応じて必要な物資を購入できる自由を与えると同時に、地域経済の循環と活性化にもつながる。加えて、近年の気候変動や自然災害は、紛争と並んで飢餓の主要因となっており、WFPはリスク管理と適応支援にも力を入れている。災害予測に基づいて資金調達を行い、事前に現金支給を行っていることや、作物損失をデータから、小規模農家に保険金を支払うインデックス保険を採用していることが分かった。

4. まとめ

これらのことから、国連食糧関連機関の活動は、単なる物質的・金銭的な援助に留まらない、根本的な課題解決を志向した包括的なアプローチが特徴であることが明らかになった。

まず、IFADは食を通して、その土地の経済発展やジェンダー間での差別解消に寄与していることが分かった。また、ただ金銭面の支援で終わるだけでなく、知識や農業運営の仕組み自体にアプローチをすることで、地域住民の方々が主体的に持続的な農業運営を行える仕組み作りを実現している。

次にWFPは、世界の飢餓問題の解決に向け、短期的な食料支援に加えて、長期的な生活基盤の整備と地域の持続性向上が図られていることが分かった。

本視察を通じて得られた、根本原因へのアプローチと持続性を重視した仕組み作りという視点は、私たちの今後の活動においても重要であると考えます。最終発表に向けこの知見を活かし、設定したテーマにおいても短期的な効果だけでなく、長期的な構造改革に繋がる仕組みづくりを意識して提案を行っていきたい。